

平成22年度 大学職員情報化研究講習会 ～基礎講習コース～  
グループ討議・成果発表

日 時 : 平成22年7月7日(水)～9日(金)  
グループ : E班 1グループ

テーマ 「環境の変化に対応した『学士力』の修得」

【1. 問題提起】

大学全入時代が叫ばれるようになり、既に久しいが、近年大学を取り巻く環境は、厳しさを増している。そこで、中央教育審議会より、平成20年12月24日に、少子化による学生の質の低下、またグローバル化する知識基盤社会において、学位水準の国際的な通用の問題などの解決のため『学士課程教育の構築に向けて』という答申が出された。

1グループでは、その答申を参考に、現状各大学が抱える問題点を出し合い、問題提起を行った。勤務している大学の規模や、地域によって若干の違いは見られたが、問題点としては下記の3点に絞られた。

1. 休学・退学者の増加（離籍率の上昇）
2. 就職率の低下
3. 少子化による学生の質の低下

【2. テーマ設定】

上記の3つの問題点をどのように解決するかを、下記の2点を考慮に踏まえつつ、成果発表のためのテーマ設定について討議した。

- ◆ 私立大学が、各々掲げている大学の理念や、建学の趣旨を鑑み、どのような学生を育成するのか。また、大学職員が提供できる、学生サービスとは何か。
- ◆ 大学が社会（ステークホルダー）に求められている価値および卒業生の質とはどのようなものか。

この討議におけるグループの結論としては、大学の本質である『学士力』を学生に身に付けさせることにより、問題の解決を図るとした。

そこで目的（テーマ）を「環境の変化に対応した『学士力』の修得」として、そのためのICTを活用した具体策を検討し、発表としてまとめた。

【3. 解決策の設定】

問題解決のために、グループのテーマとして、「環境の変化に対応した『学士力』の修得」としたが、何を行うことによって、『学士力』の修得が可能になり、「大学の質保証システム」が構築できるかを、問題点を挙げながら、下記の通り解決策をまとめた。

- 授業の改善

- ・シラバスについて、大学によっては、授業概要のレベルであり、ある種の契約書として位置づけられているシラバスが、学生が事前に確認できずに履修をしているケースが見られる。
- ・授業を反復学習できるシステムがない。
- ・授業評価に取り組んでいる大学は多いが、学生への公表方法が曖昧となっている。
- 学生支援の充実
  - ・キャリア教育などにも繋がるが4年間を通した体系的な学生支援がないこと。
  - ・学生が各々の状況に応じて必要となる情報の提供方法に問題がある。
- 組織力の向上
  - ・部署間での情報共有が欠如している。

#### 【4. 解決策の具体例】

##### 具体例 「一元化された学生支援ツール（ポータルサイト）の作成」

※学生にとって必要な情報がすべて集約された、ネットワークを介した全学的な支援ツール  
 ≪主な機能≫

1. 履修登録
2. 授業評価アンケート
3. シラバスの提示
4. E-learning の導入
5. 学生カルテの導入
6. 就職支援ツール

##### ■ 授業改善

ポータルサイトにシラバスを提示することによって、履修登録に関連付けられ、納得のいく授業選択が可能となる。また、E-learning の導入によって、補完的かつ反復学習が可能となること。授業評価をポータルサイトから入力可能とすることで、正確なデータ収集して、授業そのものの改善（FD）に繋げることができること。

##### ■ 学生支援の充実

ポータルサイトによって、学生カルテを管理・作成する。キャリアデザインを明確にする。また、ポータルサイトを通じて、学生個々に応じた情報提供をすることで、円滑な学生生活が送れるようになる。これにより、離籍率の減少に繋げる。

##### ■ 組織力の向上

情報の一元化により、部署間を越えて情報を共有することができ、効率的な学生支援を行うことができる。

#### 【5. まとめ】

今回のグループ発表を通じて、ICT を活用することによって、大学が持つ様々な情報を一元化して、可視化（数値化）することによって、大学の改善を図る。情報が可視化されているということは、PDCA のサイクルにも容易に乗せられるということが分る。

今後、私立大学は淘汰の時代を迎えるが、ICT を活用して、学生満足度を向上させ、それにより「大学の質保証」を確保する。